

令和6年度 第1回幸田町総合計画審議会
議事録

日 時： 令和6年8月20日（火）13時～14時40分

場 所： 幸田町保健センター2階 視聴覚室

参加者： 委員名簿（別紙）

1 町長挨拶

- ・ これまで総合計画を10年ごとに策定してきた。
- ・ 前回、第6次幸田町総合計画の計画期間である10年を振り返ると、様々なことがあった。計画策定時には想定していないことも多々起こった。
- ・ 2018（平成30）年大須賀前町長が在任中に亡くなり、私が町長に就任した。当時は暑さ対策が課題であり、小中学校に空調設備を導入したりした。また、その後、新型コロナウイルスの感染が拡大し、その対応に追われた。
- ・ これまで幸田町では総合病院の整備が住民からの要望の主要なものの一つであったが、幸田町の財政規模から整備することは難しく、長年懸案となっていた。藤田医科大学岡崎医療センターの誘致に、幸田町も加わることを岡崎市から打診され、大須賀前町長の決断で大きな財政負担もして誘致に加わったことで長年の課題が解決された。
- ・ 総合計画は10年間の大きな計画であり、以上の事例のようなことを事前に想定しておくことは難しい。それでも将来像を描き、進んでいくことが大切である。
- ・ 今回の総合計画では、以下のようなテーマを取り上げていく必要があると考えている。

①人口減少対策

第6次幸田町総合計画ではこれまで進めてきた区画整理事業や工場誘致によって人口増加が続き、目標とした42,000人を達成できた。日本全体では人口は減少局面に入っており、幸田町の人口もこれまでのような増加ではなく、ほぼ横ばいと推計されているが、この人口対策が主要テーマの一つである。

②高齢化対策

高齢化の進行が大きなテーマの一つである。それに対応した高齢者福祉施設の整備などが求められている。

③子育て支援

人口減少対策にもつながる子育て支援がもう一つのテーマである。

- ・ 取り上げるべきテーマは他にも、DXやカーボンニュートラル、外国人住民への対応などがある。皆さんからも重要と思われるテーマ等についてご意見をいただいて、会長を中心に整理して総合計画に盛り込んでいただきたい。

2 会長選出

- ・ 東京大学先端科学技術研究センター 工学系研究科都市工学専攻教授の廣井氏を会長として選出した。
- ・ また、会長となった廣井氏からの指名で、日本福祉大学 学事顧問 社会福祉学部教授の児玉氏が副会長となった。

3 廣井会長あいさつ

- ・ 名古屋大学教員として4年間の在任時、幸田町の消防団とのワークショップやまちづくり関連の会議への参画、駅前の火災の調査など幸田町との関わりがあった。
- ・ 第2回審議会で、基本構想案などが示される予定だが、それに向けて今日の第1回審議会では、第6次総合計画の進捗を確認し、構想案策定についての策定方針を議論してもらいたい。

4 議事

- (1) 第6次幸田町総合計画の進捗状況について
- (2) 第7次幸田町総合計画の策定及びスケジュールについて

【事務局説明】

- ・ 配布資料に基づき、事務局である幸田町企画政策課の柴田課長から「総合計画について」、石川主幹および河村主事から「第6次幸田町総合計画の進捗」、石川主幹から「第7次幸田町総合計画の策定」について説明。

【委員からの意見】

○こうた環境ネットワーク 代表 重松委員

- ・ 幸田町では、町長と語る会が開かれて来たので、今後もそうした会を開き、住民が使いやすい施設の整備を進めて欲しい。
- ・ 幸田町内には児童館が4つあるが、児童数が多い幸田小学校区にはないため、児童館の整備を進めて欲しい。人口減少対策、子育て支援につながるものであり、できるだけ早期に実現してほしい。
- ・ シルバー人材センターが幸田学区に移転するという話を聞いたが、そこに児童館を併設してほしい。

→ 事務局（柴田課長）

- ・ 町長と語る会は、各団体ごとに所管部署を通じて依頼をしてもらえば、所管部署が調整をする。
- ・ 個別分野とは別に、総合計画策定にあたっては3つの中学校区ごとに住民懇談会を予定

している。町長の出席は未定だが、住民懇談会では総合計画に関する意見交換を地域の住民に参加してもらい行う予定である。

- ・ 「福祉施策推進構想」はあるが、そこに児童館を作ることができるかは未定。

→ 廣井会長

- ・ 住民参加が総合計画の策定にあたっては重要である。住民へのヒアリング等でできるだけ住民の声が反映されたものとして欲しい。
- ・ 例えば、福岡県水巻町では子どももヒアリング対象としている。加えて、町全職員から町の課題を聞き取り、徹底して課題の把握に努めている。
- ・ 全国的にはパブリックコメントの実施方法として、オープンハウス型（説明パネル等の展示と併せ、担当者が参加者の質問等に対して説明するとともに、意見等を伺う形式）で行う事例もある。
- ・ 積極的に住民の意見を吸い上げて住民参加による総合計画づくりを進めて欲しい。
- ・ 住民参加を進めることには、3つのメリットがある。
 - ①住民の声により、地域の課題をより広く把握することができる。
 - ②総合計画に関する議論が活性化する。
 - ③住民自らが意見を出すことで、住民に関心を持ってもらえる。

○区長会会長 小野委員

- ・ 町長があいさつで言及されたように「両親が安心して子育てできる環境」を整えることが大切だと思う。
- ・ 親が心理的に安定していることが子どもにとっても重要である。核家族化が進むとともに、共働き世帯も増えていることから、親が安心できる子育て支援が大切である。
- ・ 2つ目に、子どもの意見を聞くことにも賛成である。小学生は大人が思いもよらない意見を出してくれることがある。ただ、予算など実現性などは考慮していないので、そこは大人が考えれば良い。
- ・ また、大学生の意見を聞くことも良いと思う。町内から名古屋市等の大学へ通っている大学生は多く、そういう学生たちにも、働きかけて意見交換をしてみしてほしい、大学生であれば、町の外の様子も知っており、町の魅力や改善点を客観的に考えることができる。
- ・ 3つ目に、「健康こうた 21」という別分野の計画策定に現在、参画している。これは健康分野における計画だが、総合計画はそういう分野ごとの計画とすり合わせて、連動していく必要がある。
- ・ 最後に、10年の間でいろんなことが変わって来たとし、変っていくので、第6次幸田町総合計画を単に見直すだけにとどまらず、第7次は10年先を見据えて新しい計画としていきたい。

→ 事務局（内田部長）

- ・ 親が安心して子育てができるような子育て支援が重要であることは町としても認識しており、近年では特に働く親の子育てを支援するため、子ども園や児童クラブなどの整備を進めてきた。この方針を次期総合計画でも継続していくことを検討している。
- ・ 子どもたちに意見を出してもらおうアイデアについても前向きに考えたい。何か機会があるか、教育委員会など関係部署とも話しながら検討をしていきたい。
- ・ 毎年新成人と町長との懇談会を開くため、その準備を進める実行委員会が設置される。今年の実行委員会メンバーを対象にヒアリングを実施することを予定している。
- ・ 分野ごとの個別計画と総合計画の連携は、それぞれの計画策定時および見直し時期に適宜確認をしており、今後も必要に応じて総合計画の方向性に沿って、個別計画との連携を確認していく。
- ・ 計画期間が10年というのは確かに長いので、中間での見直しなども必要に応じて検討していきたい。

→ 廣井会長

- ・ 子どもなど若い世代の意見を集めるのは良いと思う。Uターンを促すうえでも、かつては「郷土愛」と呼び、現在だと「シビックプライド」や「プレイス・アタッチメント」と呼ばれる気持ちを醸成するような効果が期待できる。

○幸田町ボランティア連絡協議会 会長 山本委員

- ・ 我々は高齢者がボランティアで様々な活動をすることで、高齢者自身が元気になるような活動を行っている。そういう活動を広げていくため、高齢者が活動する場所として、平日の昼間だけでなく、休日や夜間まで活用できる施設、福祉会館などを整備して欲しい。

→ 事務局（内田部長）

- ・ 町でも新しいタイプの施設整備を進めており、また新設ではなく、既存の建物を活用するような取り組みを進めている。例えば、古民家 **ogi** を整備した。駐車スペースが限られているなど、使い勝手がよくないという意見もあるが、こうした施設整備を今後も進めて行く方針である。

→ 廣井会長

- ・ サードプレイスとも呼ばれる、自宅でも職場でもない、地域の中での居場所づくりは、まちづくりにとって大切である。

○民生委員児童委員協議会副会長 伊藤委員

- ・ 前回総合計画について十分に検証し、費用対効果を考え、既存の事業で廃止するものは廃止し、新しい事業を作っていないと財政的にはいけないのではないかと。

→ 事務局（内田部長）

- ・ ご指摘の通り、求められる事業すべてを行うことは財政的には難しく、どういう方向性を持って、どんな事業を進めて行くのかを定めるのが総合計画である。また、その財政的な検証は実施計画や毎年度の予算編成時にも適宜行っていくものである。

→ 廣井会長

- ・ 検証するためには、数値化できるものは数値化することが大切であり、総合計画とも連動させて進めて欲しい。

○幸田荻谷土地区画整理事業準備委員会 副代表 稲吉委員

- ・ 幸田町全体で5万人を目指しているという話が出たが、荻谷土地区画整理事業では、住民の増加数を1,000人と見込んでいる。
- ・ 幸田町は名古屋の通勤圏であり、今後、さらに人口を増やすためには、幸田駅に全ての快速が止まるようにすることが一策だと思う。そのためには、上下分離型のホームとする必要があるのではないかと。

→ 事務局（内田部長）

- ・ 第6次幸田町総合計画では目標人口42,000人を達成したが、日本全体では人口減少局面になっており、幸田町の人口もこれまでのようには増加しないと推計されている。その中で、荻谷土地区画整理事業は人口増加が見込める事業として期待している。
- ・ 名古屋の通勤圏内の駅として、相見駅、幸田駅は名古屋駅から続く駅の中で初めて駅周辺に緑が見える駅であり、緑に囲まれた環境もあって名古屋から移り住んで来てくれていると思う。
- ・ ただ、幸田駅に全ての快速電車が止まるためには乗降客数が一定数以上でないといけないため、簡単には実現できない。

→ 廣井会長

- ・ 人口5万人を目指すとしても、区画整理だけでは達成できないものであり、その他に何かできるのかを考えることが必要。あるいは、人口減少の中で5万人という目標を考え直す必要があるのではないかと。次回以降、総合計画を作っていく中でご意見をいただければと思う。

○日本福祉大学教授 児玉委員

- ・ 第7次幸田町総合計画は、第6次を見直すのではなく、10年後を見据えて新しく作成するという考えや、財政を考えて数値による検証を行うという意見に賛成である。
- ・ 加えて、第6次幸田町総合計画の中で取り組まなかったこと、取り組めなかったことは何かを明らかにして検証しておくことが重要である。例えば、第4章の施策3「障がいのある人とともに暮らしている」では、取り組みとして「障がいへの理解の普及」が計画に掲げられているが、進捗報告では手話言語条例の制定などは挙げられているが、何が取り組まなかったのかが分からない。全ての障害に関する理解を広めることは第7次でも取り組むべきことであり、そのためには第6次で取り組めなかったことを明らかにし、第7次ではどうするのかを盛り込むことが必要。このような検証も、可能な範囲で次回審議会に向けて総合計画の策定の中で進めてもらいたい。

→ 廣井会長

- ・ 最後に要望が2つある。
 - 1つ目は、コンサルタントと町職員とが役割を分担し、職員が主体性を持って、専門的アドバイスを得ながら総合計画を策定して欲しい。
 - 2つ目は、できるだけ多くの町民の人に読んでもらえるような総合計画として欲しい。そのためには、例えば、水巻町の事例のように絵本にするとか、町民の人が読みやすいものとして欲しい。あるいは、多言語バージョンをつくるとか、やさしい日本語バージョンを作るなど外国人住民にも伝わるような工夫をしている自治体もある。

マスメディアでとりあげられるような新規で、ワクワクするようなものを作れば、多くの人を読むことになる。

以上